

目標年度令和 12 年度

群馬県花き振興計画 (第 8 次)

(案)

令和 8 年 3 月

群馬県農政部

はじめに

A decorative border consisting of a repeating pattern of small, empty square boxes forming a double-line border around the page content.

A large grid of 100 empty square boxes arranged in 10 rows and 10 columns, intended for handwritten responses.

A decorative horizontal border consisting of a repeating pattern of small, empty square boxes, arranged in a grid-like fashion.

令和8年3月

群馬県農政部長 ○ ○○

目 次

第1章	計画策定の考え方	P 4
1.	策定の趣旨	
2.	位置付け	
3.	計画の期間	
4.	計画の構成	
第2章	振興方針	P 5
1.	基本方向	
2.	基本目標	
3.	群馬県花き農業の現状と課題、推進対策	
(1)	担い手の確保・育成	
(2)	生産基盤の強化	
(3)	需要拡大及び流通の効率化	
4.	主要品目の現状と課題、推進対策	
(1)	バラ	
(2)	スプレーギク	
(3)	トルコギキョウ	
(4)	コギク	
(5)	枝物類	
(6)	シクラメン	
(7)	カーネーション（鉢物）	
(8)	アジサイ（鉢物）	
(9)	花壇用苗物類	
第3章	地域別推進計画	P23
1.	中部地域	
2.	西部地域	
3.	吾妻地域	
4.	利根沼田地域	
5.	東部地域	
第4章	推進体制	P34
参考資料	群馬県花き振興計画策定経過	P〇

第1章 計画策定の考え方

1. 策定の趣旨

群馬県では首都圏に位置する恵まれた立地条件を活かし、特色ある花き産地が形成され、平坦地から中山間地域まで地域特性に応じて、バラ、スプレーギク、トルコギキョウ、コギク、枝物類、シクラメン、カーネーション(鉢物)、アジサイ(鉢物)及び花壇用苗物類などの多彩な品目が栽培されている。

その一方で、ライフスタイルの多様化や冠婚葬祭等の業務用需要の減少による消費低迷の影響を受け、花きの販売価格は長期にわたり伸び悩んでおり、国内花き市場が縮小傾向にあることから、産地間競争は激しさを増している。

このように、花きを取り巻く情勢が大きく変化している中、国が定めた「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針(令和7年4月30日公表)」を踏まえ、県内花き産地の動向や社会的諸条件を考慮し、群馬県の花き産業^{※1}に関する5年後を目標とした振興計画を策定するものである。

2. 位置付け

第8次群馬県花き振興計画は、花きの振興に関する法律の第4条に規定する振興計画であり、「次期群馬県農業農村振興計画」の花きに関する部門別計画に位置付けられ、花き振興にあたっての具体的な計画である。

3. 計画の期間

令和8年度を初年度とし、令和12年度を目標とする。

ただし、農業・農村を巡る社会情勢の変化や、施策の効果・評価を踏まえて、隨時見直すこととする。

4. 計画の構成

群馬県花き振興計画の構成は、主に、振興方針、地域別推進計画、推進体制とする。

振興方針では対応策を示すとともに、群馬県花き産業における目標値を設定した。

また、地域別推進計画では、県内5地域（中部・西部・吾妻・利根沼田・東部）における現状と課題を整理した上で、その推進対策を示した。

※1 花き産業…花きの振興に関する法律が定義する「花きの生産、流通、販売又は新品種の育成の事業」のことをいう。

第2章 振興方針

1. 基本方向

群馬県内の花き生産は、全国に誇れる優れた栽培技術とそれに裏付けされた高い品質、魅力あるオリジナル品種など、潜在的な高いポテンシャルを持っている。

一方で、花きは嗜好品であることから、ライフスタイルの多様化や業務需要の減少等により消費が低迷していることに加え、資材費、物流費、人件費等のコスト上昇も重なり、花き経営を取り巻く環境は一層厳しさを増している。

こうした状況の中、将来の花き産地を支える後継者や、高い技術力と意欲を持つ担い手が、安心して活躍できる環境が求められている。

そのためには、県、市町村、JA等の関係機関が連携し、新たな担い手が定着し活躍しやすい体制づくり、生産者の所得向上に向けた生産基盤の強化、花きの利活用推進、花の新たな魅力の発信・提案に取り組む必要がある。

そこで、本計画では、「担い手の確保・育成」、「生産基盤の強化」、「需要拡大及び流通の効率化」の3つの柱を中心に、地域や品目の特性を活かした魅力ある「群馬」らしい持続可能な花き産地を確立する。

2. 基本目標

(1) 基本推進スローガン

花の力を次世代へつなぐ！持続可能な花き産地の確立

(2) 全体目標

	基準年 [令和6年]	目標年度 [令和12年]
群馬県産花き産出額 ^{※2}	55 億円	→ 60 億円

(3) 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
新規就農者数（花き） ^{※3}	人	—	30
花きの単位面積あたりの収量 ^{※4}	千本・鉢/10a	17.1	17.9
1世帯あたりの花き購入金額（前橋市） ^{※5}	円	17,736	19,500

(4) 推進方策

- 地域の核となる担い手の確保・育成に取り組むとともに、生産者団体の活性化による産地体制強化に取り組む。
- 高温対策、スマート農業の導入、出荷期間の拡大、共同出荷体制の強化等により、生産者の所得向上と持続可能な花き生産体制の構築に取り組む。
- 消費者ニーズに即した商品生産及び積極的なPR活動を展開することで、「群馬県産花き」のブランド確立による販路拡大に取り組む。

※2 出典：生産農業所得統計（農林水産省）

※3 出典：新規就農者実態調査（18歳以上 65歳以下）（群馬県）

※4 出典：作況調査（花き）（農林水産省）

※5 出典：家計調査（前橋市・二人以上の世帯）（総務省）

3. 群馬県花き生産の現状と課題、推進対策

(1) 担い手の確保・育成

① 現状と課題

農業全体で高齢化や担い手不足が深刻化している中、県の花き産業では、高収益が期待される品目(バラ・鉢物等)については、後継者の確保や世代交代も進んでおり、全国レベルの品評会や展示会での活躍も見られる。また、一部の中山間地域では、花き生産を柱とした複合経営での就農及び市町村を核とした受入体制の整備など、先進的な取組も見られる。

一方で、近年の資材費、物流費、人件費等の高騰により、花き経営は厳しい状況に置かれている。そのため、投資が大きい施設花きを中心に、経営難を背景とした廃業及び品目転換などを余儀なくされる事例も散見されている。さらに、高齢化、担い手不足及び他産業との人材獲得競争により雇用労力が不足しており、品質維持や規模拡大を阻む要因となっている。

このような状況を踏まえ、担い手の確保・育成は、これまで以上に喫緊かつ重要な課題となっており、地域及び品目の特性に応じたきめ細やかな対策が求められる。

加えて、既存の生産者に対しても、厳しい経営環境を乗り越えるための栽培技術の高度化や経営能力の向上支援等を通じて、花き経営の継続と発展につなげる必要がある。

② 推進対策

A 地域の核となる担い手の確保・育成

- ・新規就農者の確保に向けて、県(農業構造政策課・野菜花き課・農業事務所)、市町村及びJA等の関係機関が連携し、幅広い対象者(定年帰農者、半農半X等も含む)に向けた就農相談窓口の設置及び受入体制整備に取り組む。
- ・全国の就農相談フェアへの出展及び広報媒体を通じて、県内外からの花き経営への参入を促すことで、担い手候補者の掘り起こしを行う。
- ・就農相談や就農支援では、就農希望者の実情に合わせ、品目や経営形態など多様な選択肢を提示し、円滑な就農及び定着ができるよう、県(野菜花き課・農業事務所)や市町村等が連携して対応する。
- ・担い手の定着を促進するため、生産者を対象とした県域の研修会及び先輩生産者との意見交換会等を開催し、地域を越えた生産者間の情報共有及び仲間づくりの機会を創出する。
- ・担い手それぞれの実情に合わせた定着・育成支援を行うため、県(農業事務所)を中心に、経営及び栽培技術に応じたレベル別研修の開催や新規就農者の重点支援等に取り組む。

- ・露地花き栽培の経営指導では、県（野菜花き課・農業事務所）が中心となり、地域特性を踏まえた複合経営における、花きの位置付けを明確にし、野菜、果樹、米麦及び工芸作物など他品目との複合経営モデルで示すことで、花き栽培の導入を促進させる。

B 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援

- ・経営管理力の向上、事業継承の円滑化及び経営規模の拡大に向け、県（農業構造政策課・野菜花き課・農業事務所）が中心となり、群馬県農業経営・就農支援センター等を活用し、意欲ある生産者を対象に法人化を支援する。
- ・経営規模の拡大や省力化技術の導入等による生産体制の整備に向け、県（野菜花き課・農業事務所）が市町村と連携し補助事業の活用を推進する。
- ・労働力確保に向け、県（農業構造政策課・野菜花き課・農業事務所）では、多様な人材の活用、農福連携の推進、雇用管理等に関する情報収集・提供及び研修会の開催に取り組む。
- ・市町村、JA及び生産者と連携し、地域の実情を踏まえた具体的な対応を検討の上、それぞれの地域に即した労働力確保の取組を推進する。

C 花き生産者団体の活動支援

- ・花き生産者団体は、技術研鑽や販売力の向上に加え、産地課題の解決、生産者間の連携、新規栽培者の受入・定着促進など重要な役割を担っている。団体に属する生産者を中心に、県（農業事務所）、JA、群馬県園芸協会等が連携することで団体の効果的な運営及び活動の活性化に向けた取組を支援する。

D 中山間地域の花き産地振興

- ・県内の中山間地域では、高齢化や担い手不足、過疎化が著しく進行しているが、中之条町六合地区等では、県（農業事務所）、市町村、JA等の関係機関と生産者が連携し、新規就農者の受入に向けた取組が進められ、移住を伴う就農事例も見られる。「花き振興」と「地域振興」の結びつきが強い中山間地域では、先進事例を参考に、当該地域の県（農業事務所）、市町村、JA及び生産者が連携して振興体制を整備し、移住を含む新規就農者を受入れることで産地振興に取り組む。

(2) 生産基盤の強化

① 現状と課題

県の花き生産は、生産者及び県関係機関による長年の技術研鑽の成果として、バラ、シクラメン、アジサイ（鉢物）を中心に、全国的にも高品質な産地として高い評価を得ている。

一方で、近年は気候変動の影響により、夏季を中心に高温傾向が強まり、開花時期の前進・遅延や生育障害の発生といった影響が出ており、物日等の需要期に合わせた安定出荷が難しくなる事例も見られる。

さらに、花き全体の消費は長期的に減少傾向にあり、産地間競争の激化も重なって、市場価格は伸び悩んでいる。加えて、資材費、物流費及び人件費の高騰が続き、生産コストが上昇していることから、生産者の経営環境は一層厳しさを増している状況である。

こうした状況を踏まえ、今後は気候変動や市場動向の変化にも柔軟に対応しつつ、生産性の向上と経営の安定化を図ることが不可欠であり、生産者の所得向上につながる実効性のある対策が求められている。

また、国においては、環境負荷の低減や持続可能な農業の実現を目指し、有機農業や資源循環型農業等を推進していることから、群馬県としてもこれらの施策との整合性を図りつつ、将来を見据えた花き生産体制の強化に取り組む必要がある。

② 推進対策

A 気候変動（高温）への対応

- ・近年の高温による品質低下等が課題となっていることから、県（野菜花き課・農業事務所）、市町村及びJAが連携し、補助事業等の活用を含めた高温対策に資する施設・機械整備を進める。
- ・導入後の設備が効果的に活用されるよう、現地での技術指導を行う。
- ・需要に応じた計画的な出荷を行うため、県（野菜花き課、農業事務所、農業技術センター）及びJAが連携し、高温環境下でも安定した生産が可能な耐暑性品種の導入を推進する。

B 複合環境制御技術を主としたスマート農業の推進

- ・バラ、キク、トルコギキョウをはじめとする切り花では、生産現場の温度・湿度・日射量など環境要素の「見える化」を進めるとともに、複合環境制御技術の確立及び普及のため、県（農業事務所）を中心にIoTを活用したスマート農業の導入を推進する。
- ・県（野菜花き課・農業事務所・農業技術センター）と生産者が連携し、各種環境要素について、モニタリングデータ及び生産実績に基づいた検証を行い、これらが収量・品質に与える影響を明らかにする。
- ・検証結果をもとに、スマート農業の導入効果を高める技術開発及び情報共有を進め、生育環境の最適化による単位面積あたりの収量向上及び品質の安定化を実現する。

C 切り花類の出荷期拡大

- ・キク及び草花類については、株冷蔵、日長処理、生産施設の整備及び品種選定などの取組を進め、出荷期間の延長による販売額増加を目指す。
- ・生産技術指導は県（農業事務所）及びJAが担い、施設整備の導入にかかる補助事業は、県（野菜花き課・農業事務所）及び市町村を主として活用を推進する。

D 消費者ニーズに即した商品生産の推進

- ・市場競争の激化や消費動向の多様化に対応し、生産者の利益を確保するためには、これまでの高品質・高価格帯品目に加え、量販店向けの価格帯・規格に対応した商品づくりへの転換を推進する。
- ・消費者ニーズの高いオリジナル品種は、高価格で取引され生産者の所得向上につながることから、県（野菜花き課・農業技術センター）が中心となって、県オリジナル品種の育成に取り組むとともに、生産者育種の活性化につながる研修会を開催する。
- ・生産者が、市場・生花店等から直接情報を収集できるよう、県（野菜花き課・農業事務所）及びJAが連携し、産地見学会や商談会の開催を支援し、需要に即した商品開発と販路の確保につなげる。

E 省力化・低コスト化に向けた技術活用の推進

- ・資材費、燃料費及び人件費の高騰に対応するため、県（農業事務所・農業技術センター）が中心となり、省力化・低コスト化に資する技術の検証及び現地への普及を進める。
- ・県（野菜花き課・農業事務所）、市町村及びJAが連携し、補助事業等の活用を含めた省力化及び低コスト化に資する施設・機械整備を進める。

F 共同選花・共同販売体制の強化

- ・スプレーギク、バラ、切り花アジサイ、鉢物カーネーション等の一部の品目で共同選花・共同販売を実施しており、県（農業事務所）、JA全農ぐんま及び県内JAが連携し、出荷規格の統一や品質の高位平準化に向けた技術指導を実施する。

G 気象災害対策

- ・ひょう、大雪などの気象災害による被害を軽減するため、県（野菜花き課・農業事務所）、市町村及びJAが連携し、施設の補強、老朽箇所の補修、排水路の整備、防風ネットの設置、適切な作付け及び品種選定など、日常的に実施可能な対策について技術指導を行う。
- ・県（農業事務所）が中心となり、気象災害など不測の事態に備えて、農業版BCP（事業継続計画書）の策定を推進する。

- ・農業共済組合、県（野菜花き課・農業事務所）、市町村及びJAが連携し、災害等による生産者の収入減少に備え、収入保険及び園芸施設共済への加入を促進する。

H 難防除病害虫の防除対策

- ・県（野菜花き課・農業事務所・農業技術センター）は、防除が困難となっている土壌病害、ウイルス病、アザミウマ類、ハダニ類、クビアカツヤカミキリ等に対応するため、防除技術、被害軽減対策及び総合的病害虫・雑草管理（IPM）の普及を推進する。

I 環境負荷低減・資源循環型農業の推進

- ・県（野菜花き課・農業事務所・農業技術センター）が連携し、環境負荷低減に資する新技術について、効果検証及び現地実証を行い、花き生産現場への普及を促進する。
- ・県（農業事務所）が中心となって、土づくりや化学肥料・化学合成農薬の使用低減に取り組む生産者を支援し、環境に配慮した持続可能な花き生産を推進する。

J 品評会による生産技術研鑽

- ・花品評会への出品は、生産者の技術研鑽及び新規就農者・後継者の意欲向上につながることから、県（野菜花き課）及び群馬県園芸協会が連携し開催する。

【参考】BCP（事業継続計画） 出典：農林水産省ホームページ

BCPとは、自然災害や感染症、大事故が発生した場合においても、中核となる事業を継続させたり、可能な限り短時間で事業を復旧させたりするための方法、手法などをあらかじめ取り決めておく計画のこと。

【参考】IPM（総合的病害虫・雑草管理） 出典：農林水産省ホームページ

IPMとは、病害虫の発生状況に応じて、天敵（生物的防除）や粘着板（物理的防除）等の防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫の発生を抑制する防除技術のこと。

(3) 需要拡大及び流通の効率化

① 現状と課題

1世帯当たりの切り花の年間消費金額は、長期的に見ると減少傾向が続いていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭内での花き需要が一定程度定着したことから、近年は横ばい傾向で推移している。今後は、この傾向を一過性に終わらせるうことなく、いかに需要の維持・拡大につなげていくかが重要な課題である。

一方で、冠婚葬祭や贈答での花き需要は減少しており、花き市場規模は縮小傾向にある。また、母の日などの贈答需要に対して、他産業が積極的に参入していることから、需要の中心であった物販売においても、花きの販売は低調な状況がみられる。

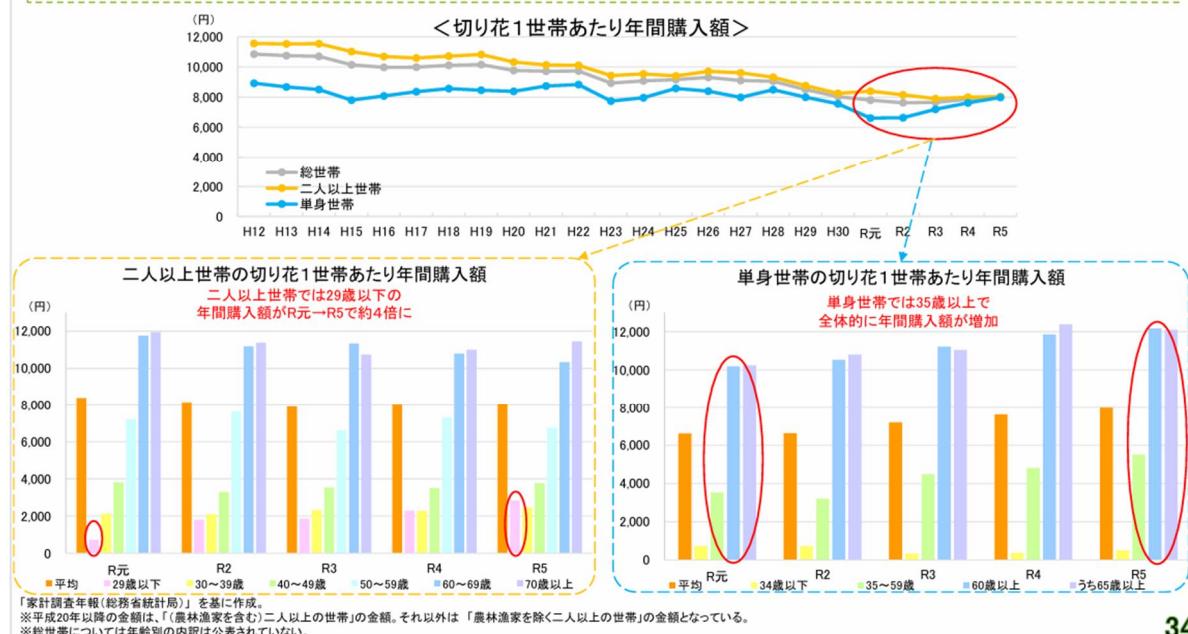
こうした状況を踏まえ、今後の販売対策では、従来の品質追求型の取組に加え、消費者のニーズを踏まえた商品設計や販売方法（マーケットイン）への対応が求められる。また、市場関係者や生花店等に対しては、出荷前の作柄や産地動向などの情報提供を行うとともに、産地の魅力及び「群馬県産」としての付加価値を積極的に発信していく必要がある。

需要拡大については、花き業界全体の共通課題であり、個別の品目にとどまらず、日常生活における花き利用の提案、花育の推進、ガーデニング需要の創出など、幅広い場面での需要喚起に取り組む必要がある。

さらに、令和6年4月に施行された運送業界の働き方改革関連法の影響により、運送業における人手不足が深刻化しており、運送ルートの見直し及び運賃の上昇が進む中で、輸送用トラックの確保が困難となるおそれが生じている。いわゆる「物流の2024年問題」への対応が求められる中、花き流通においても、流通体制の効率化や出荷量の安定的な確保が重要な課題となっている。

【参考】花きの消費について

- 切り花の1世帯あたり年間購入額は長期的に見ると減少傾向だが、近年は横ばいで推移。
- 世帯主の年齢別で見ると、若年層ほど購入金額が低い。



② 推進対策

A 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

- ・市場取引のうち、価格の安定が期待できる「予約相対取引」の割合を高めるため、県（農業事務所）及びJAが協力し出荷計画、品目、数量等の情報を市場関係者に情報発信するとともに、出荷前情報の迅速な発信を行う。
- ・産地見学会、商談会、市場展示等を通じて市場関係者と情報交換を行い、需要に応じた出荷体制の構築と市場との信頼関係の強化により、販売力向上と価格の安定を目指す。

B JA全農ぐんま及びJAの販売戦略支援

- ・JA全農ぐんま及び県内JAが連携して、共同選花・共同販売体制の構築による品質の平準化及び安定的な出荷、産地の認知度向上を目的としたPR活動など、花きの販路拡大に取り組む。あわせて、県（野菜花き課・農業事務所）、JA及び産地が連携し、販売戦略を共有・検討する場を設けることで、戦略的なマーケティング対策を加速させる。

C オリジナル品種など高付加価値商材を核とした「群馬県産花き」のブランド化による販路拡大

- ・県産花きは、高い栽培技術に支えられた品質の高さに加え、生産者育種を含む希少性の高いオリジナル品種が大きな強みとなっている。こうした特性を活かし、県（野菜花き課、農業事務所）、JA全農ぐんま、JA等が連携し、「群馬県産花き」のブランド力強化と販路拡大に取り組むとともに、生産者自身によるセルフブランディングの支援を通じて、販売力と単価の向上を目指す。
- ・さらなるブランド価値の向上を目指し、JAや県（農業事務所）が連携し、品質の安定化、差別化、計画的な出荷体制づくりを推進する。
- ・県産花きの魅力や、商品・産地に関する情報を広く発信するため、県（野菜花き課・ブランド推進課）が中心となってSNSやホームページ等の媒体を活用し、流通業者、販売業者、消費者など販売ターゲットごとのニーズに応じた情報発信に取り組む。

D 花育、消費拡大イベントによる需要喚起

- ・花きの消費低迷が続く中、長期的な視点に立った需要を拡大させるために、県（野菜花き課）、群馬県園芸協会、生産者団体等が連携し、教育・福祉の分野での花育活動を推進する。
- ・県（野菜花き課）及びJA全農ぐんまが中心となって「花のある暮らし」の楽しさを伝えるPRイベントや大切な人へ花を贈る習慣を広める取組を通じて、花を贈る・飾る文化の定着と日常生活における新たな花き需要を創出する。

- ・県(野菜花き課)が中心となって、令和9年に開催される国際園芸博覧会への出展により、群馬県産花きの品質や産地の魅力を国内外に発信し、ブランド力の向上と販路拡大に取り組む。あわせて、「花のある暮らし」の提案や花文化の普及を通じて需要拡大につなげる。

E 「Gunma Flower Park⁺」と連携した花きの需要喚起

- ・「Gunma Flower Park⁺」は、県内の生産者団体と連携し、園内装花に県産花きを積極的に使用することで、その魅力をPRする。
- ・花壇や温室での装飾展示、各種企画展示、花育活動などを通じて、花と緑に関する普及啓発を進めるとともに、幅広い世代に対する花きの需要喚起につなげる。

F 花き流通体制の効率化

- ・花きの流通体制の効率化に向けた取組として、物流集出荷施設、低温設備の整備、出荷箱規格の統一化等に取り組む。また、スプレーギク等の一部品目では、前々日出荷を行うことで市場への着荷時間を早め、流通業者の負担軽減及び有利販売につなげる。
- ・「物流の2024年問題」への対応として、県(野菜花き課)、JA、関係事業者等と連携し、輸送試験による花保ちの確認、産地間連携による共同出荷、輸送手段の多様化に取り組む。

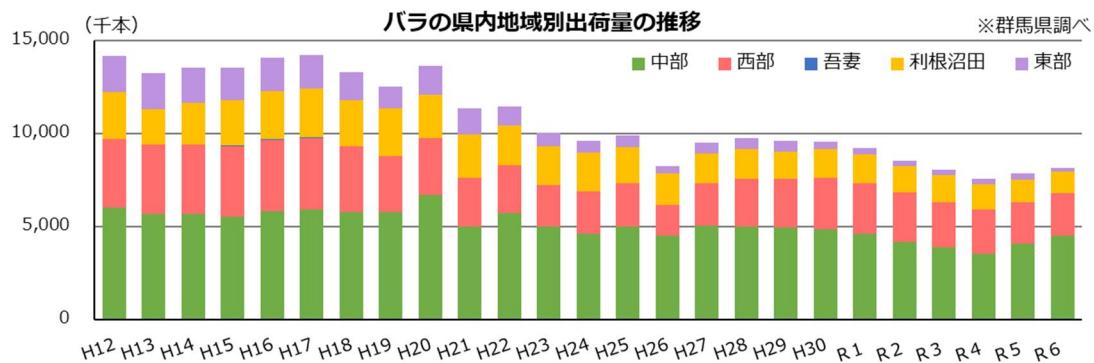
G 群馬県産花きの輸出対応支援

- ・国内市場での将来的な需要減少に備え、輸出に取り組む事業者及び関係機関との連携を図りながら、収穫調製・梱包・貯蔵・輸送など輸出に対応した体制整備に向けた情報共有等を行い、輸出を希望する生産者等の取組を支援する。

4. 主要品目の現状と課題、推進対策

(1) バラ

① 生産状況



② 現状と課題

県産のバラは、全国の品評会で上位を占めるなど、高品質産地として花き市場及び生花店から高く評価されている。

主産地は、中部地域及び西部地域であり、施設整備や養液栽培等のシステム導入が進んでいるほか、他品目と比較して後継者への世代交代が進展している。

近年は、夜間冷房などに加えて、より高い収量の確保を目指し、炭酸ガス濃度管理及び湿度管理など、最適な光合成環境を作り出すための栽培環境データの測定と測定結果に基づいた環境制御技術の実践、さらに、生産者同士の情報共有による技術研鑽が行われている。

一方で、バラ栽培は設備の高度化に伴い、燃料費や資材費等の経費が増加しており、収益性が課題となっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
バラの単位面積あたりの収量 ^{※6}	本/a	8,458	8,809

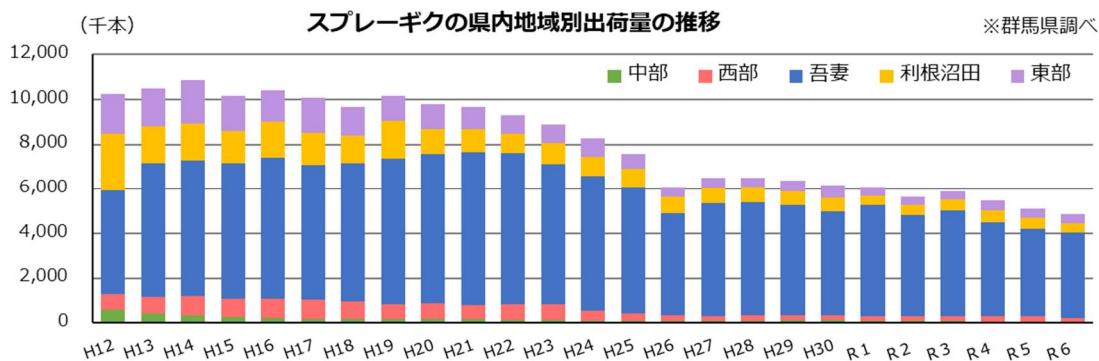
④ 推進対策

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓑ 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
- Ⓒ 花き生産者団体の活動支援
- Ⓐ 気候変動（高温）への対応
- Ⓑ 複合環境制御技術を主としたスマート農業の推進
- Ⓗ 難防除病害虫の防除対策
- Ⓘ 環境負荷低減・資源循環型農業の推進
 - ・天敵導入や光防除技術など減農薬栽培に向けた技術の導入及び普及の促進
- Ⓛ 品評会による生産技術の研鑽
- Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援
- Ⓓ 花育、消費拡大イベントによる需要喚起

※6 出典：群馬県花き生産状況調査（群馬県）

(2) スプレーギク

① 生産状況



② 現状と課題

スプレーギクの主産地は吾妻地域で、県内出荷量の約75%を占めている。

冷涼な気候条件を活かし、ボリュームと発色に優れる秋ギクを中心に栽培し、夏の高品質産地として差別化が図られており、JAによる共同販売及び検品体制が整備されている。

一方で、生産者の高齢化に伴い、産地の縮小が進んでおり、担い手の確保が急務となっている。加えて、気候変動による高温の影響により、品質の低下及び開花の遅れなどが生じており、経営の安定性が課題となっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
スプレーギクの新規就農者数 ^{※7}	人	—	4

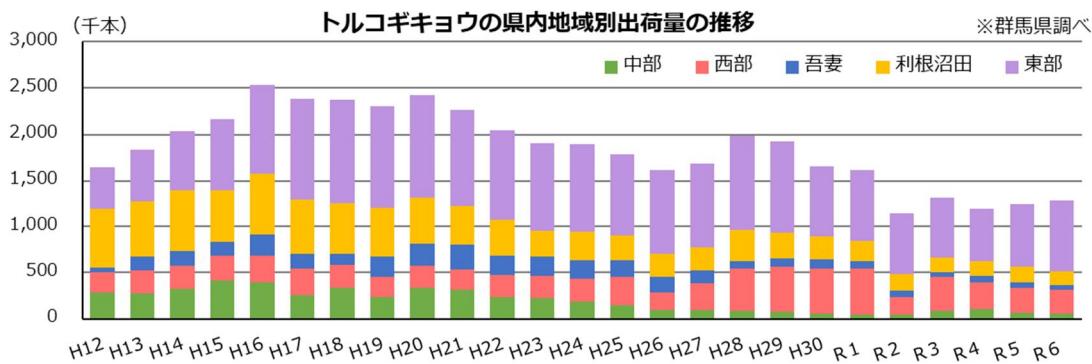
④ 推進対策

- (A) 地域の核となる担い手の確保・育成
- (D) 中山間地域の花き産地振興
- (A) 気候変動（高温）への対応
 - ・高温対策に資する設備及び耐暑性品種の導入
 - ・需要期出荷に向けた開花調節技術の開発・普及
- (C) 切り花類の出荷期拡大
- (F) 共同選花・共同販売体制の強化
 - ・共販産地の検品体制強化による品質の高位平準化
- (A) 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援
 - ・市場展示等を通じた市場関係者との信頼関係を強化
- (B) JA全農ぐんま、JAの販売戦略支援
- (F) 花き流通体制の効率化
 - ・前々日出荷に対応した出荷・物流体制の整備

※7 出典：新規就農者実態調査（18歳以上 65歳以下）（群馬県）

(3) トルコギキョウ

① 生産状況



② 現状と課題

県内のトルコギキョウ生産は、東部地域及び西部地域の平坦地では、温度管理及び品種の組合せにより初冬から初夏にかけて出荷が行われ、利根沼田地域をはじめとした中山間地域では、冷涼な気候を活かし夏から秋にかけて出荷が行われている。

県全体で産地リレーが行われている品目で、新規就農者及び後継者の就農もみられる。

近年、トルコギキョウは、日持ちの良さや多様な品種により幅広い用途に利用され、安定した需要を維持している。

一方、生産面では高温による品質低下、土壌病害及びロゼット化などによる生産口数が課題となっており、安定した生産・出荷が求められている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
トルコギキョウの出荷量※8	千本	1,275	1,317

④ 推進対策

Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成

- ・直売所出荷者や他品目生産者に対するトルコギキョウの導入・転換の推進
- ・中古ハウス活用による栽培面積の拡大

Ⓐ 気候変動（高温）への対応

- ・高温対策に資する設備及び高温耐性品種の導入

Ⓑ 複合環境制御技術を主としたスマート農業の推進

- ・炭酸ガス施用を中心とした複合環境制御技術の検討及び導入による品質向上

Ⓒ 難防除病害虫の防除対策

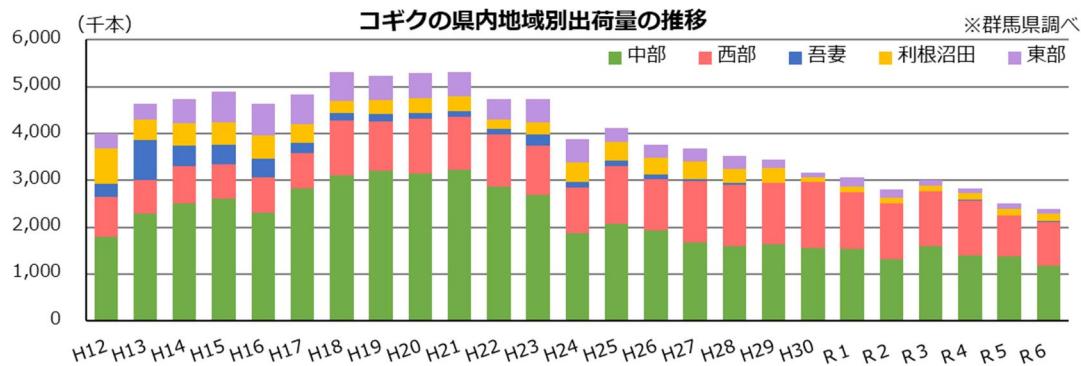
- ・低濃度エタノールを利用した土壤還元消毒技術による連作障害対策の推進

Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

※8 出典：群馬県花き生産状況調査(群馬県)

(4) コギク

① 生産状況



② 現状と課題

コギクの主産地は、中部地域及び西部地域で、主に盆・彼岸など供花需要に向けて生産・出荷されている。花き栽培の中でも初期投資が少ない品目であり、需要もあることから、県（農業事務所）では関係機関とともに、新たな担い手の掘り起こし及び栽培技術の支援に取り組んできた。

また、県（農業技術センター）では、県内主産地の栽培条件に適した県オリジナル品種（計4品種）の育成を行い、花束加工に適した定番の3色を揃えることで、現地への普及を進めている。

一方で、生産者の高齢化及び減少並びに作付面積の減少が続いている。さらに、露地栽培が中心であることから、近年多発する豪雨や高温など気候変動の影響を受け、品質の低下や開花遅延など経営の不安定さ課題となっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
コギクの新規就農者数 ^{※9}	人	—	2

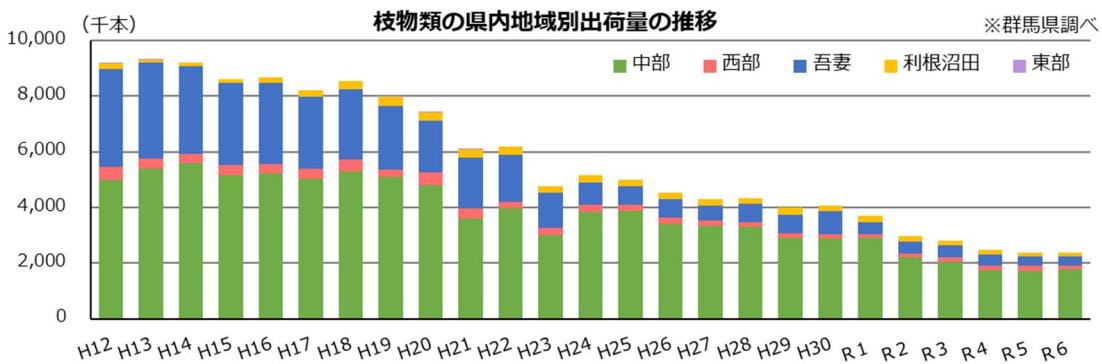
④ 推進対策

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓐ 気候変動（高温）への対応
 - ・耐暑性品種の導入推進
 - ・需要期出荷に向けた開花調節技術の開発・普及
- Ⓒ 切り花類の出荷期拡大
- Ⓓ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
 - ・県育成品種「小夏」シリーズ導入の推進及び新品種の育成
- Ⓖ 気象災害対策
- Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援
- Ⓒ オリジナル品種など高付加価値商材を核とした「群馬県産花き」のブランド化による販路拡大
 - ・市場関係者に対し、県育成品種「小夏」シリーズのPR強化

※9 出典：新規就農者実態調査（18歳以上 65歳以下）（群馬県）

(5) 枝物類

① 生産状況



② 現状と課題

枝物類の主産地は、中部地域及び吾妻地域の中山間地域で、ハナモモ及びサクラの促成栽培をはじめ、季節ごとの実物・葉物・塗り物など、多様な品目が生産されている。枝物は、アレンジメント等で季節感を出しやすいため、近年需要が高まっている。

一方で、多くの品目で規格の統一が難しく、個選個販の出荷形態が中心となっている。そのため、本数、品質、形状にばらつきが生じやすく、まとまった量での安定供給が難しいという課題を抱えている。

また、生産者の高齢化が進んでいることから、担い手の確保が喫緊の課題となっている。

さらに、近年ではハナモモ及びサクラなどに寄生する特定外来生物クビアカツヤカミキリによる被害が拡大しており、防除対策の強化が求められている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
枝物類の新規就農者数 ^{※10}	人	—	5

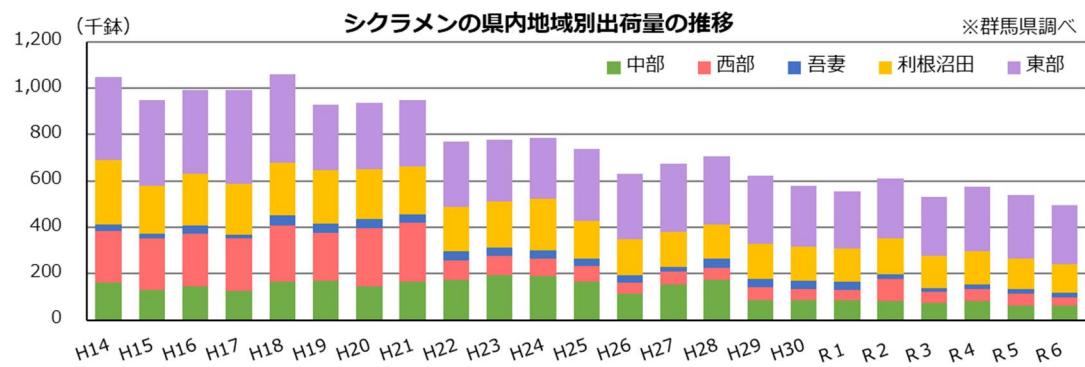
④ 推進対策

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓓ 中山間地域の花き産地振興
 - ・耕作放棄地対策及び鳥獣被害対策としての枝物栽培の導入
- Ⓓ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
- Ⓖ 気象災害対策
- Ⓗ 難防除病害虫の防除対策
 - ・ハナモモやサクラ等に寄生するクビアカツヤカミキリの被害防止対策
- Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

※10 出典：新規就農者実態調査(18歳以上 65歳以下)(群馬県)

(6) シクラメン

① 生産状況



② 現状と課題

主産地である東部地域及び利根沼田地域を中心に、県内各地で生産が盛んに行われ、全国有数のシクラメン産地を形成しており、世代交代及び技術継承が進んでいる。

生産現場では、群馬県で確立された栄養診断技術の活用による適切な栽培管理によって、ボリューム感と高い品質を備えたシクラメンの栽培が行われている。

シクラメンは、年末の贈答用商品として長年にわたり確かな地位を築いてきたが、近年はギフト需要が縮小傾向にあり、特に大鉢タイプでは価格の低迷が見受けられる。

また、一部地域では雇用の確保が難しく、慢性的な人手不足が品質維持に影響を及ぼしていることや、高温による開花遅延及び品質の低下が生じ、需要期出荷の妨げとなっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
シクラメンの単位面積あたりの販売額※11	千円/a	386	389

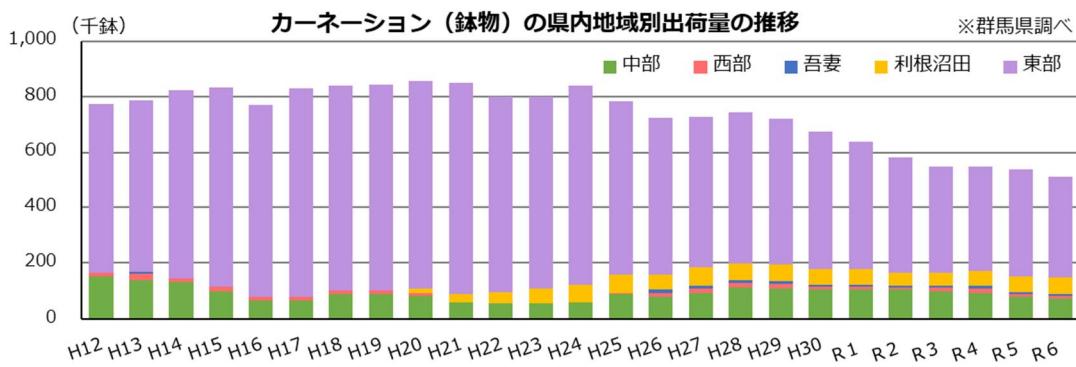
④ 推進対策

- ① 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
- ② 気候変動（高温）への対応
 - ・高温対策に資する設備導入による品質低下の防止
- ③ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
 - ・栄養診断技術の活用による高品質な商品生産の推進
 - ・生産者によるオリジナル品種の育成
- ④ 省力化・低コスト化に向けた技術活用の推進
 - ・コンパクトな規格品生産による栽培期間の短縮及び労働力の軽減
- ⑤ 品評会による生産技術の研鑽
- ⑥ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援
- ⑦ JA全農ぐんま及びJAの販売戦略支援
 - ・量販店向けシクラメンの販売促進
- ⑧ オリジナル品種など高付加価値商材を核とした「群馬県産花き」のブランド化による販路拡大

※11 出典：群馬県花き生産状況調査（群馬県）

(7) カーネーション（鉢物）

① 生産状況



② 現状と課題

群馬県は、愛知県や埼玉県等と並ぶ全国有数の鉢物カーネーション産地である。主に、母の日ギフトに対応した出荷が行われており、販売形態も店頭販売に加え、カタログ及びインターネットを活用した通信販売が主流となっている。

このような商品特性から、鉢物カーネーションは、まとまった出荷量に加え、開花程度及び品質の均一性が求められる。主産地である東部地域及び利根沼田地域では、JAによる共同販売体制のもと、品質の均一化や安定生産を目指した取組が行われている。

一方、近年は母の日ギフトの多様化による需要の減少も見られ、産地間競争が一層激化している。また、その年の気候等によりボリューム感や品質にばらつきが生じることがあり、産地内での品質の高位平準化は、共同販売を円滑に進める上で重要となっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
カーネーション(鉢)の東京都 中央卸売市場平均単価 ^{※12}	円	644	676

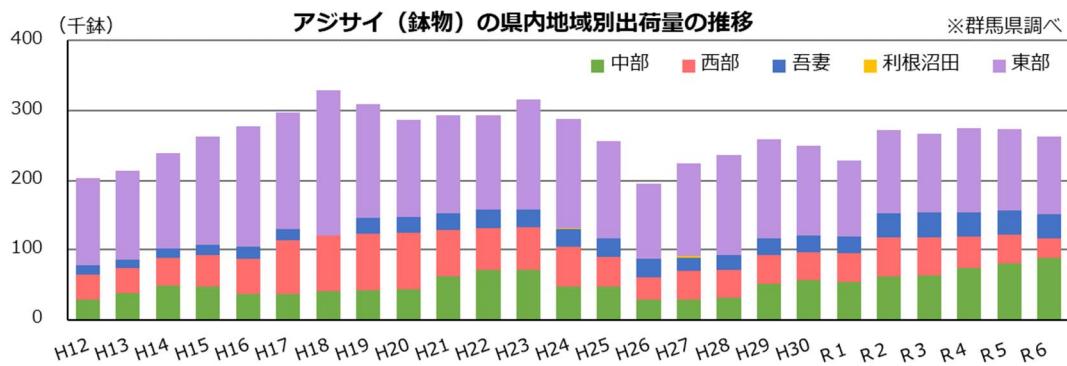
④ 推進対策

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓑ 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
 - ・「母の日」出荷に合わせた労働力の確保
- Ⓕ 共同選花・共同販売体制の強化
 - ・「母の日」需要に合わせた安定開花及び品質の均一化と向けた技術の普及
- Ⓖ 気象災害対策
- Ⓗ 難防除病害虫の防除対策
 - ・立枯病対策の技術開発及び普及
- Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援
- Ⓑ JA全農ぐんま及びJAの販売戦略支援
 - ・新規の販路拡大に向けた営業活動の実施

※12 出典：群馬県花き生産状況調査（群馬県）

(8) アジサイ（鉢物）

① 生産状況



② 現状と課題

群馬県のアジサイは、平坦地から中山間地域まで各地で生産されており、わが国で最初に品種登録されたアジサイが県内生産者によるものである等、歴史ある産地として知られている。

産地には、高い栽培技術を活かし豪華な仕立ての鉢物アジサイを生産している生産者がおり、生花店等で高級アジサイとして評価され、県産アジサイの認知度向上に貢献している。また、県内には品種育成に取り組む生産者もあり、オリジナル品種の開発によって付加価値が高まり、市場では高単価で取引してきた。

近年は、ギフトの市場規模が縮小する中、他産地からもオリジナル品種が登場し、産地間競争が一層厳しさを増している。今後も、栽培技術の継承とともに、オリジナル品種を核とした販売戦略の強化が課題となっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
アジサイ（鉢）の東京都中央卸売市場平均単価※13	円	1,067	1,120

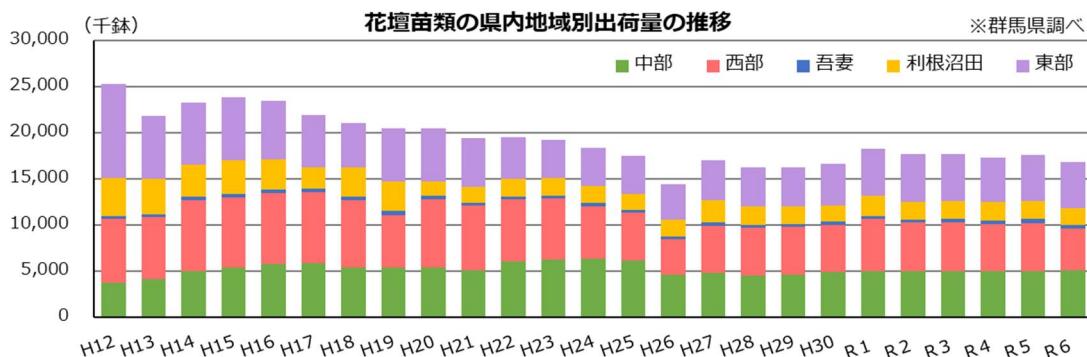
④ 推進対策

- ① 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
- ② 花き生産者団体の活動支援
- ③ 気候変動（高温）への対応
 - ・花芽検鏡の実施による促成栽培の開花安定
- ④ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
 - ・県及び生産者によるオリジナル品種の育成
 - ・わい化剤の適期散布による品質の維持
- ⑤ 気象災害対策
- ⑥ 品評会による生産技術の研鑽
- ⑦ オリジナル品種など高付加価値商材を核とした「群馬県産花き」のブランド化による販路拡大

※13 出典：東京都中央卸売市場市場統計情報

(9) 花壇用苗物類

① 生産状況



② 現状と課題

花壇用苗物類（以下「花壇苗」という。）は、平坦地から中山間地域に至るまで標高差を活かして、多種多様な品目・品種が栽培されている。出荷最盛期は、ガーデニング需要が高まる春と秋であるが、耐暑性・耐寒性に優れた品目を組み合わせることで、周年出荷に取り組む生産者も見られる。

県内の花壇苗生産は、パンジー、ペチュニア、ビンカといった定番品目の大量生産に加え、オリジナル品種などの高付加価値品目を少量生産するなど、経営スタイルに多様性がある。特に、オリジナル品種を核とした販売戦略により、安定した取引を実現している事例もある一方で、定番品目の大量生産については、全国的に大規模経営体の台頭が進むことにより、価格競争が激化し、厳しい経営を強いられる傾向にある。今後は、オリジナル品種を含めた高付加価値品目の導入や、新規の販路拡大等による販売戦略の強化が課題となっている。

③ 振興目標

目標指標	単位	令和6年度	令和12年
花壇用苗物類の産出額 ^{※14}	千円	1,089,789	1,116,759

④ 推進対策

- ① 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
- ② 花き生産者団体の活動支援
- ③ 気候変動（高温）への対応
- ④ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
 - ・生産者によるオリジナル品種の育成
 - ・大手企業や種苗会社等と連携した野菜苗契約生産の拡大
- ⑤ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援
 - ・ホームセンター等との契約生産による定番品目の販路確保
- ⑥ オリジナル品種など高付加価値商材を核とした「群馬県産花き」のブランド化による販路拡大
- ⑦ 花育、消費拡大イベントによる需要喚起
- ⑧ 「Gunma Flower Park⁺」と連携した花きの需要喚起

※14 出典：群馬県花き生産状況調査（群馬県）

第3章 地域別推進計画

1. 中部地域

推進スローガン

担い手確保と生産性向上により
持続可能な花き産地を目指す

【市町村】前橋市、伊勢崎市、渋川市、榛東村、吉岡町、玉村町



(1) 現状と課題

中部地域は県の中央部に位置し、平坦部から赤城南麓まで標高40～700mに産地が広がっている。管内では、枝物、コギク、バラ等の切り花、シクラメン、カーネーション、アジサイ、オステオスペルマムなどの鉢物、花壇苗物類といった多種多様な品目が生産されている。

担い手については、バラ、鉢物、花壇苗物類などの施設栽培では、経営継承による就農が見受けられるが、親世代の高齢化やパートの確保が困難になっていることから、労働力の確保と省力化が課題となっている。

一方、枝物やコギク等の露地栽培品目では、後継者が減少し、生産者の高齢化が進んでいることから産地の維持が難しい状況になっている。加えて、全国的な生産量の減少により、市場での需要が高まっていることから産地の維持拡大に向けた担い手確保の取組が重要となっている。

近年では、夏季の高温による影響が顕著となっており、品質低下、開花遅延および病害虫の多発などが大きな問題となっている。特に、周年栽培を行うバラでは、高温の影響による品質及び収量低下が冬季まで続くことが大きな問題となっている。また、コギク及びシクラメンでも開花遅延や品質の低下がみられることから、高温対策に資する設備の導入や栽培技術に関する支援が求められている。

さらに、人件費や燃油を始めとする経費が高騰するなかで、生産者が所得を維持・拡大するためには、生産性の向上と再生産が可能な単価での販売が不可欠である。そのため、生産過程でのロスを減らし安定生産を行うための技術支援に加え、高品質化やブランド化等に向けた販売対策が重要である。

(2) 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
バラの単位面積あたりの収量	本/a	10,495	11,000
コギクの新規就農者数	人	—	1
枝物類の新規就農者数	人	—	1
シクラメンの単位面積あたりの販売額	千円/a	276	262
カーネーション(鉢)の東京都中央卸売市場平均単価	円	644	676
アジサイ(鉢)の東京都中央卸売市場平均単価	円	1,067	1,120
花壇用苗物類の産出額	千円	290,122	304,628

(3) 推進対策

① バラ

- ⑨ 花き生産者団体の活動支援
- ⑩ 気候変動（高温）への対応
- ⑪ ハウスの「見える化」と効率的な環境制御技術による生産性の向上
- ⑫ 天敵導入や光防除技術など減化学農薬栽培技術の導入及び普及の推進

② コギク

- ① 枝物や秋冬野菜との複合経営を前提とした担い手の掘り起こし
- ② 高温による開花遅延対策の検討
- ③ 共同選花・共同販売体制の強化
- ④ 病害虫発生状況等のタイムリーな技術情報提供による適期防除の推進

③ 枝物類

- ⑤ 地域の核となる担い手の確保・育成
- ⑥ 消費者ニーズに即した商品開発の推進
- ⑦ ハナモモやサクラ等に寄生するクビアカツヤカミキリ被害防止対策の推進

④ シクラメン

- ⑧ 経営の持続・発展に向けた後継者への栽培技術及び経営改善の指導
- ⑨ 現地検討会開催等、情報共有の場を設け産地全体の栽培技術のボトムアップを推進
- ⑩ 気候変動（高温）への対応
- ⑪ 経営スタイルや労働力に合わせた商品生産の推進
- ⑫ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑤ カーネーション（鉢物）

- ⑬ カーネーションを組み込んだ経営モデルの提案による生産者の掘り起こし
- ⑭ 「母の日」需要に合わせた出荷及び品質の高位平準化に向けた技術指導の実施
- ⑮ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑥ アジサイ（鉢物）

- ⑯ 経営の持続・発展に向けた後継者への栽培技術及び経営改善の指導
- ⑰ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
- ⑱ オリジナル品種など高付加価値商材を核としたブランド力強化と販路拡大

⑦ 花壇用苗物類

- ⑲ 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
- ⑳ 消費動向や消費者ニーズに合わせた商品作りと栽培技術支援
- ㉑ オリジナル品種など高付加価値商材を核としたブランド力強化と販路拡大
- ㉒ 「Gunma Flower Park+」と連携した花きの需要喚起

2. 西部地域

推進スローガン

多彩な花きで築く持続可能な地域農業

【市町村】高崎市、藤岡市、富岡市、安中市、上野村、神流町、下仁田町、南牧村、甘楽町



(1) 現状と課題

西部地域は県の西南部に位置し、標高 60m の平坦地から 800m の中山間地まで広く農地が分布している。各地域では自然・立地条件を活かした多様な花き生産が展開されている。平坦地では、バラやシンビジウムなどの切り花、シクラメン、アジサイ、エラチオールベゴニアなどの鉢物、花壇苗物類等の施設栽培が盛んで、経営継承による就農も見受けられる。一方、中山間地では、キク類、宿根草類及び枝物類が露地で栽培されているが、生産者の中心は 60~80 歳代と高齢化が進んでいる。

販売面では、市場への個選出荷が主流であるものの、キク類及び花壇苗については道の駅やスーパー、JA 直売所などにおける直接販売も行われている。

近年は、資材高騰や夏季の高温により、従来の栽培管理方法では安定した利益の確保が困難になっている。

こうした背景から、西部地域では、品質向上及び生産量の安定確保による収益性の確保と生産者間の連携強化、後継者不足及び高齢化への対応として新規参入者を受け入れる環境の整備、省力的な品目・技術の導入と販路拡大、さらには気象変動に対応した栽培環境の改善などが、今後の持続的な発展に向けて重要な課題となっている。

(2) 振興目標

目標指標	単位	令和 6 年	令和 12 年
バラの単位面積あたりの収量	本/a	10,970	11,519
トルコギキョウの出荷量	千本	252	265
コギクの新規就農者数	人	—	1
枝物類の新規就農者数	人	—	1
シクラメンの単位面積あたりの販売額	千円/a	252	252
アジサイ(鉢)の東京都中央卸売市場平均単価	円	1,067	1,120
花壇用苗物類の産出額	千円	329,280	345,744
シンビジウムの単位面積あたりの販売額	千円/a	274	282
宿根草類の新規就農者数	人	—	1
エラチオールベゴニアの単位面積あたりの販売額	千円/a	544	571

(3) 推進対策

① バラ

- (B) 事業継承の円滑化に向けた経営相談及び生産体制の整備に向けた補助事業の活用
- (C) 花き生産者団体の活動支援
- (A) 気候変動（高温）への対応
- (B) 複合環境制御技術を主としたスマート農業の推進
- (H) アザミウマ類、ハダニ類等の難防除病害虫に対する総合的病害虫管理(IPM)の推進
- (I) 天敵の導入や光防除技術など減化学農薬栽培技術の導入及び普及の促進
- (A) 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

② トルコギキョウ

- (C) 花き生産者団体の活動支援
- (A) 気候変動（高温）への対応
- (B) 各種環境要素のデータ検証及び環境の最適化による生産性の向上
- (I) 低濃度エタノール等を用いた土壤還元消毒による連作障害対策の推進
- (A) 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

③ コギク

- (A) 地域の核となる担い手の確保・育成
- (B) 花き経営の持続的な発展に向けた法人化及び労働力確保の支援
- (D) 中山間地域の花き産地振興
- (A) 高温による開花遅延対策の検討及び推進
- (H) オオタバコガ等多発する害虫に対する総合的病害虫管理(IPM)の推進

④ 枝物類

- (A) 地域の核となる担い手の確保・育成
- (D) 中山間地域の花き産地振興
- (H) サクラ等に寄生するクビアカツヤカミキリ被害防止対策の推進
- (A) 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑤ シクラメン

- (C) 花き生産者団体の活動支援
- (A) 気候変動（高温）への対応
- (A) 栄養診断技術の有効活用による適正施肥管理方法の定着
- (H) アザミウマ類等難防除病害虫に対する総合的病害虫管理(IPM)の推進
- (A) 商談会等の活用による予約相対率向上に向けた販売対策支援

⑥ アジサイ（鉢物）

- Ⓐ 気候変動（高温）への対応
- Ⓓ 農業技術センターと連携したオリジナル品種の開発
- Ｊ 品評会による生産技術の研鑽
- Ⓔ 「Gunma Flower Park⁺」等と連携した消費者向けPRの実施

⑦ 花壇用苗物類

- Ⓐ 気候変動（高温）への対応
- Ⓗ アザミウマ類、アブラムシ類等難防除病害虫に対する総合的病害虫管理(IPM)の推進
- Ｊ 品評会による生産技術の研鑽
- Ⓒ 生産者自身が行うセルフプランディングの支援
- Ⓔ 「Gunma Flower Park⁺」と連携した花きの需要喚起

⑧ シンビジュム

- Ⓒ 花き生産者団体の活動支援
- Ⓐ 夏季の高温等による「花飛び」症状防止のための技術検討及び推進
- Ⓐ 農業技術センター等と連携した耐暑性品種の開発
- Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑨ 宿根草類

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓒ 花き生産者団体の活動支援
- Ⓓ 中山間地域の花き産地振興
- Ⓐ 気候変動（高温）への対応
- Ⓓ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
- Ⓐ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑩ エラチオールベゴニア

- Ⓐ 気候変動（高温）への対応
- Ⓗ コナジラミ類等難防除病害虫に対する総合的病害虫管理(IPM)の推進
- Ⓗ 株腐病等の土壤伝染性病害対策の推進
- Ｊ 品評会による生産技術の研鑽
- Ⓐ 商談会等の活用による予約相対率向上に向けた販売対策支援

3. 吾妻地域

推進スローガン

多様な栽培環境を活かして、人と花が育む
サステナブルな産地を作ろう



【市町村】中之条町、長野原町、嬬恋村、草津町、高山村、東吾妻町

(1) 現状と課題

吾妻地域は県北西部に位置し、耕地は標高300mから1,400mまで起伏に富んで分布しており、年平均気温(R6)は、東部の中之条町で13.7°C、西部の嬬恋村(田代)で9.1°Cと気候条件の差を活かした農業が行われている。

管内の東吾妻町では、キク類を中心とする切り花の生産が盛んで、特にスプレーギクは県内作付面積の約7割を占める一大産地となっており、JAによる共同販売、検品体制及び生花市場との連携により、強固な産地基盤が構築されている。旧中之条町では輪ギク及び枝物類が栽培されている。旧六合村では冷涼な気候条件を活かした宿根草類の切り花栽培が盛んで、「六合の花」としてブランド化されている。高山村では村の花として市場からも評価が高いリンドウが栽培されている。さらに、旧中之条町、高山村、東吾妻町でも宿根草類の栽培が伸びており、旧六合村との標高差を生かしたリレー栽培の取組が進められている。

しかしながら、近年の高温による影響が顕著となっており、いずれの品目においても品質の低下や開花の遅延(または早期化)、病害虫の発生期間の長期化などが課題となっている。これらの課題に対応するため、定温管理できる集出荷施設の整備や高温対策に資する設備の導入、IPMの推進など、JAをはじめとした関係機関と連携した取組が進められている。

また、後継者不足や技術継承が課題となっており、生産量を維持するためには新たな担い手の確保と既存生産者の規模拡大、品質や単収の向上が急務となっている。こうした中、旧六合村では関係機関と地域住民が受入体制を整備し、移住や就農希望者を研修生として受け入れ、独立就農まで支援することで、就農者の確保につながっている。この取組をモデル事例として、近隣の市町村でも受入協議会を設置し、担い手の確保に向けた取組が進められている。あわせて、これまで培ったブランド力をさらに高めるため、県やJAによる技術指導の強化が求められている。

(2) 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
スプレーギクの新規就農者数	人	—	3
枝物類の新規就農者数	人	—	2
輪ギクの適期出荷率	%	61	70
リンドウの出荷量	千本	26	26
宿根草類の出荷量	千本	2,654	2,787

(3) 推進対策

① スプレーギク

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保
- Ⓐ 新規栽培者の早期経営確立に向けた支援
- Ⓐ 気候変動（高温）による開花遅延及び品質低下への対応
- Ⓒ 中堅生産者の品質向上及び出荷期の拡大
- Ⓕ 共同販売体制の強化及び品質の高位平準化
- Ⓐ 前々日出荷に対応した収穫基準の確立及び適正管理の推進
- Ⓕ 気候変動（高温）に対応した集出荷施設の導入に向けた支援

② 枝物類

- Ⓓ 耕作放棄地対策及び鳥獣被害対策としての枝物栽培の推進
- Ⓗ ハナモモやサクラに対する難防除病害虫の防除対策
- Ⓐ 実需者ニーズを意識した新品目導入による販売促進

③ 輪ギク

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓐ 気候変動（高温）による開花遅延及び品質低下への対応
- Ⓕ 共同販売体制の強化及び品質の高位平準化
- Ⓗ IPMに基づいた難防除病害虫の防除対策の推進
- Ⓐ 前々日取引に対応した収穫基準及び適正管理の推進
- Ⓕ 気候変動（高温）に対応した集出荷施設の導入に向けた支援

④ リンドウ

- Ⓐ 定年帰農者等を中心とした担い手の確保・育成
- Ⓗ リンドウホソハマキ等難防除病害虫の防除対策

⑤ 宿根草（セダム類、アルケミラ等）

- Ⓐ 地域の核となる担い手の確保・育成
- Ⓐ 新規就農者定着に向けた支援
- Ⓐ 気候変動（高温）による開花期の変化や病害虫発生期間の長期化への対応
- Ⓒ 生産地域の拡大に向けた取組の実施
- Ⓓ 宿根草の出荷規格統一による品質の安定化
- Ⓗ IPMに基づいた難防除病害虫の防除対策の推進
- Ⓐ 販売前情報の提供による予約相対率の向上

4. 利根沼田地域

推進スローガン

経営の安定化と担い手確保・育成を主体とした
持続可能な花き産地づくり

【市町村】沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町



(1) 現状と課題

利根沼田地域は群馬県北部に位置し、総面積 1,766 km²、県土面積の 27.7%を占め、谷川岳等の名峰、尾瀬国立公園を有し、農業と観光を基盤とする地域である。沼田市の年平均気温 (R6) は、13.5°Cと比較的冷涼で、昼夜の温度差を生かした畑作中心の農業が行われている。

管内の花き生産は、昭和村及び沼田市を中心に夏秋期のスプレーギク、トルコギキョウ、バラ等の切り花栽培が盛んである。片品村では、平成 10 年からダイコン経営の複合品目として花き栽培が導入されたことで、切り花アジサイを中心とした枝物類及び宿根草の生産が行われている。現在、産出額 83,000 千円を超える産地へと成長しており、今後も成長が期待できる花き産地となっている。また、鉢物類では、シクラメン及びカーネーションの栽培が盛んで、世代交代が進み、意欲のある担い手により高品質な鉢物生産が行われている。

しかし、鉢物類（シクラメン・カーネーション）では、気候変動による品質低下、需要の低迷による生産量の減少及び資材・燃油費の高騰による経営の圧迫が問題となっている。これらの問題を解決するために、気候変動への対策及び省エネルギー生産に向けた栽培の検討や消費者ニーズ把握に向けた市場との関係強化が重要となっている。

また、切り花類（トルコギキョウ・バラ・スプレーギク）及び枝物類の課題として、生産者の高齢化や後継者不足等による担い手の減少が問題となっている。担い手不足を解消するために品目及び地域の特性に適した担い手の確保が重要となっている。加えて、産地で問題となっている病害虫による品質低下や夏季の高温対策に取り組む必要がある。

(2) 振興目標

目標指標	単位	令和 6 年	令和 12 年
バラの単位面積あたりの収量	本/a	3,908	3,908
スプレーギクの新規就農者数		—	1
トルコギキョウの出荷量	千本	151	169
枝物類の新規就農者数	人	—	1
シクラメンの単位面積あたりの販売額	千円/a	479	503
カーネーション(鉢)の東京都中央卸売市場平均単価	円	644	676
花壇用苗物類の産出額	千円	172,732	172,732

(3) 推進対策

① バラ

- ③ 持続的な経営を目的とした労働力の確保
- ④ 気候変動（高温）に対応した栽培・施設管理指導
- ⑤ 複合環境制御技術の活用による生産性の向上
- ⑥ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

② スプレーギク

- ③ 他品目との複合経営を含めた担い手の掘り起こし
- ④ 気候変動（高温）に対応した適期開花管理の指導
- ⑤ ダニ類及びアザミウマ類の害虫防除対策

③ トルコギキョウ

- ③ 他品目との複合経営を含めた担い手の掘り起こし
- ④ 気候変動（高温）への対応
- ⑤ センチュウ及びウイルス病等の防除対策

④ 枝物類

- ③ 労働力軽減を目的とした複合経営モデルの提案による担い手確保
- ④ 地域内外からの新規就農者確保及び受入体制の整備
- ④ 市場ニーズに即した新規品目の導入と栽培指導の実施
- ⑤ 共同選花・共同販売体制の強化を目的とした出荷規格の検討
- ⑤ 取引市場への情報提供による販売戦略の展開

⑤ シクラメン

- ③ 花き生産者団体の運営支援
- ③ 産地全体の技術力向上・情報共有を目的とした現地検討会の開催
- ④ 気候変動（高温）に対応した栽培管理指導
- ④ 消費者ニーズの把握を目的とした産地見学会の開催及び市場との情報共有
- ④ オリジナル品種育成による高付加価値商材の生産に向けた栽培指導
- ⑤ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑥ カーネーション(鉢物)

- ④ 「母の日」需要に合わせた出荷及び品質の高位平準化に向けた技術指導の実施
- ④ 燃油使用量削減を目的とした栽培体系の検討
- ⑤ 予約相対率向上に向けた産地の販売対策支援

⑦ 花壇用苗物類

- ③ 花き生産者団体の運営支援
- ④ 消費者ニーズに即した商品生産の推進
- ⑤ 「Gunma Flower Park+」と連携した花きの需要喚起

5. 東部地域

推進スローガン

安定生産と販売戦略で持続可能な花き産地を目指す

【市町村】桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町



(1) 現状と課題

東部地域は県の南東部に位置し、利根川と渡良瀬川に挟まれた地域で、耕地は標高10mから700mまで分布するなど変化に富んだ地形となっている。なお、平坦部は夏季の最高気温35℃を超える日が続く全国有数の猛暑地帯である。

管内は、カーネーション、シクラメン、アジサイなどの鉢物の栽培が盛んな地域である。カーネーションは、JA邑楽館林を中心に共販体制が確立されており、全国有数の産地である。シクラメン及びアジサイは、共販のほか生産者直売も行われており、一部生産者ではブランド力強化につながるオリジナル品種育成にも熱心に取り組んでいる。

そのほか、花壇用苗物類、観葉植物、洋ラン類、切り花の輪ギクでは周年栽培に取り組んでいる。また、トルコギキョウでは初冬から初夏までの長期出荷が行われている。

品目の共通課題として、近年のコスト高による利益減少が経営不振につながり、高温対策等の設備投資、後継者確保が難しくなってきている。

品目ごとの課題として、鉢物カーネーションでは、産地間競争が激しくギフト需要に合致した販売対策が継続して重要である。シクラメンは、高度な肥培管理技術である栄養診断が普及しており、品質の高さが評価されているが、需要に応じた生産と販売が必要である。キク類及びトルコギキョウでは、安定した生産体制の確立と病害虫防除が重要である。花壇用苗物類及び洋ラン類では、経営強化に向けた生産の見直しや販路の拡大が求められている。

こうした背景から、東部地域の花き産地が発展するためには、安定した経営が可能となる品質と生産量維持に加えて、需要に応じた販売戦略を備えた「持続可能な産地」づくりが鍵となる。

(2) 振興目標

目標指標	単位	令和6年	令和12年
トルコギキョウの出荷量	千本	758	795
シクラメンの単位面積あたりの販売額	千円/a	537	537
カーネーション(鉢)の東京都中央卸売市場平均単価	円	644	676
アジサイ(鉢)の東京都中央卸売市場平均単価	円	1,067	1,120
花壇用苗物類の産出額	千円	263,787	263,787

(3) 推進対策

① トルコギキョウ

- (A) 地域の核となる担い手の確保・育成
- (B) 新規就農者を含めた若手生産者に対する経営相談等の実施
- (H) 品質向上及び出荷量増加に向けた立枯病等の難防除病害虫対策の推進
- (B) 市場関係者との意見交換を踏まえた出荷規格の見直し

② シクラメン

- (B) 省力化や品質向上等に資する施設設備導入等、生産体制の整備
- (C) 花き生産者団体の活動支援
- (A) 気候変動（高温）への対応
- (D) 消費者ニーズに即した商品生産の推進
- (H) 難防除病害虫の防除対策推進
- (AB) 系統出荷、EC販売、直売等の新規販路の拡大
- (C) オリジナル品種や商品開発によるブランド力強化と販路拡大

③ カーネーション

- (A) 地域の核となる担い手の確保・育成
- (B) 規模拡大、省力化、品質向上等に資する施設設備導入等による生産体制の整備
- (C) 花き生産者団体の活動支援
- (D) 「母の日」需要に合わせた出荷及び品質の高位平準化に向けた技術指導の実施
- (H) 立枯病等の病害虫防除対策の推進
- (AB) 生産部会を核とした販売戦略の検討

④ アジサイ（鉢物）

- (C) 群馬県あじさい研究会を中心とした生産者団体の活動支援
- (D) ギフト需要などの消費者ニーズに即した商品生産の推進
- (H) 斑点細菌病等の難防除病害虫対策の推進
- (C) 消費者ニーズに即したオリジナル品種の育成
- (E) 「Gunma Flower Park⁺」等と連携した消費者向けPRの実施

⑤ 花壇用苗物類

- (B) 省力化、品質向上等に資する施設設備導入等による生産体制の整備
- (C) 花き生産者団体の活動支援
- (A) 気候変動（高温）への対応
- (D) 消費者ニーズに即した品種選定や作型選択等の促進
- (H) 各種病害虫の適期防除による高品質生産の強化
- (C) オリジナル品種の育成によるブランド力強化と販路拡大
- (E) 地元自治体や「Gunma Flower Park⁺」等と連携した消費者向けPRの実施

花き振興計画

生産者・生産者組織

連携・推進

花き振興計画推進会議

＜目的＞計画の目標達成に向けた現状把握、検証及び方策検討

＜構成員＞県(野菜花き課、各農業事務所、農業技術センター)、
JA全農ぐんま、群馬県園芸協会

野菜花き課

花き係

施策推進・販売促進・
補助事業

野菜・花き技術係

技術確立・技術指導
の支援

JA全農ぐんま

販売力強化

農業技術センター

新技術・新品種
の開発

群馬県園芸協会

研究会組織活動
支援

農業事務所
扱い手・園芸課

生産振興・
技術指導

連携

関係機関

市町村・JA・市場・関係団体